

オーストラリア学会報

Australian Studies Association of Japan

第65号

2012年4月27日

<http://wwwsoc.nii.ac.jp/asaj/>

1. 第23回全国研究大会（2012年度総会）のご案内

<統一テーマ：3.11後のオーストラリアと日本の協力関係>

開催日：2012年6月9日（土）・10日（日）

会場：大阪大学・豊中キャンパス 国際公共政策研究科棟・基礎工学部国際棟

〒560-0043 大阪府豊中市待兼山町1-31

<http://www.osaka-u.ac.jp/ja/access>

<http://www.osaka-u.ac.jp/ja/access/toyonaka.html>

※交通アクセスについては6頁もご参照ください。

□6月9日（土）第1日目

9:00-12:00 理事会（国際公共政策研究科棟6階 会議室）

12:30 受付開始（基礎工学部国際棟）

13:00 開会（基礎工学部国際棟 Σホール）

司会 永野隆行（オーストラリア学会副代表理事・獨協大学）

開会挨拶 有満保江（オーストラリア学会代表理事・同志社大学）

開催校挨拶 松繁寿和（オーストラリア学会プロジェクト担当理事・大阪大学）

13:30-15:30 シンポジウム1 「豪日戦略的パートナーシップにおける成果と課題 - 5年目の検証と将来展望」司会 星野俊也（大阪大学）

報告者 Thomas Wilkins（東京大学／シドニー大学）、リチャード・アンドリュース（在日オーストラリア大使館政務担当公使）、川上高司（拓殖大学）他

15:40-17:10 特別企画「若者がみたオーストラリアと日本」司会 松繁寿和（大阪大学）

討論者 オーストラリアからの留学生、天王寺高校生徒等

17:40-19:40 懇親会（会場：国際公共政策研究科棟6階 国際公共政策研究科会議室）

□6月10日（日）第2日目

9:30 受付開始（基礎工学部国際棟）

10:00-12:00 一般個別研究報告

《第I分科会》（基礎工学部国際棟 Σホール）

《第II分科会》（基礎工学部国際棟 セミナー室）

12:00-13:00 昼食休憩／理事会（国際公共政策研究科棟6階会議室）

13:00-13:30 総会（基礎工学部国際棟 Σホール）

13:40-14:40 特別講演 Anne Collett（東京大学／ウーロンゴン大学）

“Items of Sentimental Value”

14:50-16:50 シンポジウム2 「非伝統的安全保障分野における豪日協力の将来」

司会 佐藤治子（大阪大学）

報告者 William T. Tow（オーストラリア国立大学） David Walton（西シドニー大学）

※プログラムは変更される可能性があります。詳細は学会ウェブサイトでご確認下さい。

- ◆出 欠：全国研究大会参加の有無にかかわらず、同封の返信用葉書に必要事項をお書き込みのうえ、5月31日(木)までに届くようにご投函ください。
- ◆宿泊先：恐れ入りますが、宿泊は各自で確保願います。
- ◆懇親会：懇親会費は5,000円程度を予定していますが、多少変動することがあるかもしれませんので、その節はご容赦ください。懇親会費は当日大会受付で申し受けます。なお、懇親会への参加は必ず同封の返信用はがきでお知らせくださるようお願いいたします。

2012年度オーストラリア学会 シンポジウム・特別企画・特別講演概要

シンポジウム1「豪日戦略的パートナーシップにおける成果と課題 - 5年目の検証と将来展望」

日本とオーストラリアは、2007年にアジア太平洋地域における戦略的パートナーシップの強化を宣言し、本年はその5周年目を迎える。この間、両国では大きな政権交代が起こり、国内政治情勢は一変した。また、域内の国際情勢を見渡しても、米国発のグローバルな経済危機や中国の急速な台頭といった国際力学の移行（パワー・トランジション）に伴う顕著な動きが見られている。朝鮮半島情勢の引き続きの不透明な動きや南シナ海の資源や領有権をめぐる緊張なども戦略的な課題からは目が離せないが、環太平洋経済連携協定（TPP）をめぐる議論も単に経済の側面のみならず政治や戦略的な観点からとらえ直す必要があるだろう。本シンポジウムでは、両国間の戦略的パートナーシップのこれまでの成果と今後に向けた課題の検討を通じ、将来の関係の深化に向けた提言を打ち出すこととしたい。

特別企画：「若者がみたオーストラリアと日本」

オーストラリアから日本に留学している高校生や大学生および JET 等のプログラム等で日本社会、特に若い世代に直接触れているオーストラリア人と、オーストラリアに留学経験のある日本の高校生や大学生が参加し、日豪の社会や文化の相違について意見を交換する。また、今後の両国の協力のあり方等についてもディスカッションを行い、相互理解を進める。

シンポジウム2 「非伝統的安全保障分野における豪日協力の将来」

非伝統的安全保障問題は、アジア太平洋地域において各国の協調対応が重要視される分野であり、日豪関係においても新たな協力関係の今後発展が期待される分野といえるのではないだろうか。実際、昨年3.11東日本大震災の際、オーストラリアは災害援助で迅速かつ顕著な活動が見られた。これは日豪両国が安全保障分野においても、特に非伝統的な安全保障の諸課題に対しても有力なパートナーになりうることを意味するものであった。このことはまた、「人間の安全保障」という概念やアプローチを日豪パートナーシップに取り込む可能性も示唆している。本シンポジウムは、人道援助・災害救援（HA/DR）や紛争後の平和構築なども含め、非伝統的な安全保障分野で日豪がいかなるノウハウやリソースの共有ができるのかを展望しようとするものである。

特別講演 “Items of Sentimental Value” Anne Collett

Dubbed “the ghost ship”, a Japanese fishing vessel set adrift by the Great East Japan earthquake and tsunami of March 2011, traversed the Pacific Ocean to reach the Gulf of Alaska a year later. This was a striking image and a salutary reminder of Pacific connection. In response to the likelihood of debris washing up on the west coast of North America, the Canadian province of British Columbia and the US states of Washington, Oregon and California signed an agreement to co-ordinate management of the debris when it reaches their shores, and to “return items of sentimental value to Japan”. Ocean currents determined the direction of debris travel in the Pacific, but had they been otherwise, the ghost ship might as easily have made landfall on the coast of Australia. Making connection between the ghost ship, items of sentimental value, and a shared Pacific, this lecture will explore response to the trauma of tsunami in the Pacific through the literary, visual and performative arts.

**2012 年度オーストラリア学会全国研究大会
一般個別研究報告者および報告要旨**

【第Ⅰ分科会】 司会：鎌田真弓（名古屋商科大学）

1) 友永雄吾（国立民族学博物館）「オーストラリア先住民の個人史にみる多文化な状況への対応——南東部先住民ヨルタ・ヨルタの個人史を事例として」

この報告では、オーストラリアにおける先住民と多文化主義の関係を南東部に居住する先住民集団ヨルタ・ヨルタの個人史に注目しつつ明らかにする。そこでは、植民地期から続くオーストラリア国家の先住民政策に対するヨルタ・ヨルタの対応と、彼らの日常生活における伝統やコミュニティに対して繰り広げる生の諸相を分析する。それら個人史にみられるヨルタ・ヨルタ個々人の日常的実践からは、そこに見え隠れする多文化な状況を資源として活用する彼らの姿が明らかになり、そこに現れるオーストラリア先住民と多文化主義の関係が検討される。

コメンテーター：青木麻衣子（北海道大学）

2) 宮崎紗織（大阪大学）「アボリジニー文化とオーストラリアの先住民政策」

オーストラリアにおける先住民アボリジニーと政府の先住民政策についての分析報告である。文化の相違による誤解や価値観の衝突からどのような結果をもたらされたのかを詳述する。また、オーストラリア政府の先住民政策について、その有効性及び効果も含めて国際人権法の観点からの分析を試みる。本報告では、アボリジニー文化の説明に加えて、土地、言語や‘stolen generation’とアイデンティティーの問題に関してもふれる予定である。

コメンテーター：山内由理子（マッコーリー大学）

3) 塩原良和（慶應義塾大学）「北部準州緊急対応政策における言説政治——先住民の『自己決定』概念をめぐる」

2007年の「北部準州緊急対応（NTER）」政策の開始は、従来の先住民の自己決定政策の正当性を著しく後退させるものであった。この政策の是非をめぐる論争の特徴は、国際人権規範や先住民の権利自体ではなく、自己決定政策の前提としての福祉国家理念が主な批判の対象となったことにある。本報告ではこうした論争の構図と含意を政府文書や論争当事者の著作等の分析から明らかにし、先住民の自己決定概念をいかに再構築しうるかを模索する。

コメンテーター：窪田幸子（神戸大学）

【第Ⅱ分科会】 司会：田澤佳昭（東京未来大学）

1) 湊圭史（立命館大学）「オーストラリアン・グロテスクの現在——近年の豪州小説から」

オーストラリアにおける文化表象の傾向のひとつとして、グロテスクへの執着があげられる。この発表では、近年出版されたオーストラリア小説からグロテスクを特徴としてあげられる作品を、先行する文化表象も参照しながら紹介し、文化表象におけるグロテスクが含意する諸問題について考える。特に、オーストラリアの主体が歴史に依拠する場合、それが安定した準拠点としては働かず、むしろ主体や外的世界の表象の分裂を招きよせることに注目する。

コメンテーター：加藤めぐみ（明星大学）

2) 高佐知宏（日本経済新聞社）「オーストラリアの経済成長の要因、特にリーマン・ショック前後の政府、中央銀行、企業の行動とその効果について」

オーストラリアはリーマン・ショック後の世界金融危機を OECD 加盟国の中で唯一、景気後退局面に陥ることを免れた。その背景には、豪州の天然資源に対する中国などからの需要増があったが、金融危機に至るまでの豪政府や中央銀行、そして企業の積極的な施策が功を奏した面も大きい。そこで、豪政府や中央銀行の政策、そして民間企業の活動が豪経済に与えた効果を導き出し、20年を超える経済成長に要因に迫ってみたい。

コメンテーター：花井清人（成城大学）

※大会報告者（海外在住者）への交通費助成について第13回全国研究大会から、報告される会員には海外在住者に限り、交通費助成（一律5万円）を行うことになっております（2001年12月18日第5期1回理事会決定）。発表申し込みの際に、その旨明記してください。理事会で申請案件を審議決定いたします。



2010年12月～2013年12月役員一覧

[代表理事] 有満保江

[副代表理事(編集)] 加藤めぐみ

[副代表理事(総務)] 鈴木雄雅

[学会誌担当理事] 飯笹佐代子、川口章、

[会計担当理事] 川口章

藤川隆男、安田純子

[広報・会報担当理事] 塩原良和

[HP担当理事] 小林信一、鈴木雄雅

[副代表理事(企画)] 永野隆行

[全国研究大会担当理事] 塩原良和、田澤佳昭

[監事] 関根政美、谷内達

[プロジェクト担当理事] 鎌田真弓、松繁寿和、

福嶋輝彦、村上雄一

[関東例会担当理事] 塩原良和、橋本雄太郎

[関西例会担当理事] 加賀爪優、南出眞助

2. 第5回地域研究会(関東例会)報告

塩原良和

第5回地域研究会(関東例会)は慶應義塾大学グローバルCOE 市民社会ガバナンス教育研究センターとの共催で、「『原子力』という観点から見た日豪関係の再検討」というテーマで2012年1月28日14:00～17:00に慶應義塾大学三田キャンパスにて開催されました。当日は田中利幸氏(広島市立大学平和研究所)が「豪州核政策矛盾の批判的検討:核軍縮政策とウラン採掘・輸出政策の実相」と題して基調報告を行い、村上雄一氏(福島大学)が福島在住のオーストラリア研究者の立場から、塩原良和(慶應義塾大学)が先住民族問題とウラン採掘問題の連関という視点から、それぞれコメントを加えました。なお司会は永野隆行氏(獨協大学)が務めました。長年この問題に携わってこられた田中氏の基調報告は詳細を極め、非常に貴重な情報を含むものでした。約20名の来場者のなかにはオーストラリア研究以外の関心をもつ方もおられ、様々な角度から活発な意見交換が行われました。

3. 第13回地域研究会(関西例会)報告

南出眞助

2012年3月17日(土)14:00～17:15に追手門学院大学で、<オーストラリアのエネルギー政策と日豪関係>をテーマに行われました。今回は3名の発表者のうち2名をカーティン大学から招いたため(1名は追手門学院大学、もう1名はオーストラリア学会が受けた豪日交流基金の助成による)、追手門学院大学との共催としました。①ロナルド・リップル氏(エネルギー問題)「豪日エネルギー市場とCO2排出取引のポテンシャル」は、日本の石油・天然ガス・石炭のオーストラリアからの供給率等をデータで示し、オーストラリアの炭素税導入も視野に入れた将来のシナリオを試算する内容でした。②ミシェル・ロサーノ氏(環境工学)「オーストラリアにおける再生エネルギーへのチャレンジ」は、オーストラリア国内での事例の紹介から、クリーンエネルギーを支えるシステムを論じるものでした。③加賀爪優氏(京都大学大学院・農業経済学)による「バイオエネルギーの課題と展望」は、滋賀県の実践例を中心に、バイオエタノールの生産コストと将来性に言及するものでした。いずれもエネルギー需給のハード・ソフトの両面にわたって日本が置かれている状況に切実に関係する意義深い発表でした。参加者38名。

4. 会費納入のお願い

通常、年会費の請求は年度の始まり4月に行いますが、年会費が納入されると、納入時期にかかわらず未払い年度がある場合そこへ充当されます。たとえば2012年5月に年会費を納入しても、2011年度未払いの場合、それは2011年度の会費となります。すなわち、2012年度は未納ということになります。また2010、2011年度未払いの場合、2010年度分の会費納入になります。

<2011年度分会費及び会費が未納の会員の皆様へ>

2012年度会費分を含めて請求を本号に同封します。未納年度分(2010年度を含め最多3か年)を速やかに振込票にて納入願います。未着のかたはACNet「オーストラリア学会」担当あてお知らせ願います。なお、会費振込票に会員名の記載がない場合、振込会員を特定できないため、必ず会員名をお書きください。また原則領収書は発行しておりません。郵便振替票の受領書などをご利用願います。

会費未納の会員の皆様に関しましては、当該年度の会費納入が確認され次第、学会誌『オーストラリア研究』(現在2012年3月発行、第25号)までをお送りしております。事務局では3か年分の在庫を保管しておりますので、順次発送しておりますが、お手元に届くまで若干時間がかかる場合もあります。会費納入にもかかわらず未着の学会誌がありましたら、恐縮ですが、学会事務局(ACNet)ご連絡ください。

5. 『オーストラリア研究』 投稿募集および研究文献目録掲載のお知らせ

『オーストラリア研究』に掲載する論文を募集しています。投稿はいつでも受け付けておりますが、次号 26 号に掲載する論文の投稿は 8 月末日が締め切りです。詳細は、学会ウェブサイト、もしくは 25 号掲載の「投稿要領」(2011 年 12 月 11 日一部改訂)をご覧ください。

また第 12 号以降、会員の研究文献目録を継続して掲載しております。引き続き会員の協力をお願いします。発表された著書、論文、報告書、翻訳などのなかから、オーストラリア学会の趣旨に関係する目録未掲載の研究文献を選び、お知らせください。締め切りは 2012 年 10 月 30 日 (期日厳守)。編集作業の都合上、電子メール(またはテキストファイルを含んだ CD もしくは USB)をご利用ください。記入例はバックナンバーを参照し、掲載書式に必ず準ずる形でお送りください。

投稿先：〒107-8404 東京都港区赤坂 1-2-2 日本財団ビル 特定非営利活動法人 CANPAN センター
ACNet 事務局「オーストラリア学会」担当
TEL : 03-6229-5104/FAX : 03-6229-5116 E-mail ac056-asaj@canpan.org

新刊書のご案内

◎鎌田真弓編『日本とオーストラリアの太平洋戦争—記憶の国境線を問う』御茶の水書房、2012 年 3 月 (A5 判、272 頁 定価：本体価格 3,000 円＋税 ISBN: 978-4-275-00978-4)

執筆者：鎌田真弓、田村恵子、飯笹佐代子、永田由利子、ハンク・ネルソン、加藤めぐみ、内海愛子、福嶋輝彦、笹本妙子

◎デイビッド・ブラック／曾根幸子編著、有吉宏之／曾根幸子監訳、追手門学院大学オーストラリア研究所協力『西オーストラリア—日本交流史—永遠の友情に向かって—』日本評論社、2012 年 2 月 (A5 判、432 頁 定価 3,000 円＋税 ISBN : 978-4-535-58613-0)

※2009 年に西オーストラリア大学から限定出版された "An Enduring Friendship : Western Australia and Japan - Past, Present and Future" の日本語訳版。出版社ウェブサイトより：真珠貝採りに始まる 100 年以上にわたる日本と西オーストラリアの知られざる交流の歴史を貴重な史料に基づきつづさに綴った歴史ロマン。(<http://www.nippy.co.jp/book/5817.html>)

◎デイヴィッド・マルーフ著 (武舎るみ訳・有満保江解説)『異境』(オーストラリア現代文学傑作選) 現代企画室、2012 年 2 月 (4-6 上製・312 頁 定価 2400 円＋税 ISBN : 978-4-7738-1206-0 C0097)

出版社ウェブサイト：<http://www.jca.apc.org/gendai/onebook.php?ISBN=978-4-7738-1206-0>

◎“Encyclopedic Dictionary of Australian & New Zealand English and Culture”『オーストラリア・ニュージーランド英語文化大辞典』(編集主幹：沢田敬也)オセアニア出版社、2011 年 12 月 (定価 13,500 円＋税 ISBN978-4-87203-106-5 C3582)

※オーストラリア・ニュージーランドに固有な単語約 23000 語を収録。付録としてオーストラリア・ニュージーランド文化史年表を収録。

◎早稲田大学オーストラリア研究所編『世界の中のオーストラリア—社会と文化のグローバリゼーション』、オセアニア出版社、2012 年 3 月 (定価 2,200 円＋税 ISBN978-4-87203-108-9 C3036)

※「捕鯨」「日本人移民」「ライフセービング」「姉妹都市」「生態系保護」「言語政策・教育政策」「多文化と介護・医療」「先住民芸術」を切り口に、世界の中のオーストラリアの姿を描き出す。

【諸届出／連絡先】

〒107-8404 東京都港区赤坂 1-2-2 日本財団ビル 特定非営利活動法人 CANPAN センター
ACNet 事務局「オーストラリア学会」担当
TEL : 03-6229-5104/FAX : 03-6229-5116 E-mail ac056-asaj@canpan.org

【オーストラリア学会事務局】

〒102-8554 東京都千代田区紀尾井町 7-1 上智大学文学部新聞学科内鈴木雄雅研究室気付
電話 03-3238-3983 FAX 03-3238-3094 Email: HAF00025@nifty.ne.jp
会費振込先：00190-3-157063 加入口座名：オーストラリア学会

※本会報は学会記録以外に、会員のご意見やご要望を掲載します。意見、著書、新刊、訳書、投稿など、ACNet 事務局担当までお送りください。なお紙面の制約上、掲載できない場合がありますことをご了承ください。
〔編集担当：塩原良和 (慶應義塾大学)〕

【オーストラリア学会 23 回全国研究大会 会場のご案内】



電車：

阪急電車宝塚線 石橋駅（特急・急行停車）

下車 東へ徒歩

- ・ 国際公共政策研究棟 約20分
- ・ 基礎工学部国際棟 約25分

モノレール：

大阪モノレール 柴原駅下車

徒歩約7～15分

